

白神の絆



【発行】林野庁 東北森林管理局
津軽白神森林生態系保全センター

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿倍野 70-82

TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

中・大型哺乳類調査業務の結果について

12月発行の「白神の絆 No.162」でお知らせしましたセンサーカメラによる哺乳類調査につきまして、データがまとまりましたので報告します。

全 32 調査地点から合計 14 種 3,015 個体の哺乳類が撮影されました。最も撮影個体数の多かった種はタヌキの 459 頭で、次いでニホンザル 399 頭、ニホンノウサギ 349 頭、アナグマ 287 頭、カモシカ 277 頭・・・と続きました。

監視体制を強化中のニホンジカは 6 箇所（深浦町、西目屋村）から合計 8 頭が撮影されて、全てオス♂の個体でした。このことから、縄張りを広げようと移動中の個体が撮影されたものと推測されます。

現段階で青森県側の白神山地周辺地域にニホンジカは定着していないと考えられますが、秋田県北地域や青森県十和田地域ではメスジカのグループが確認されていますので、引き続き各関係機関と協力して、監視体制の強化を続けていきます。

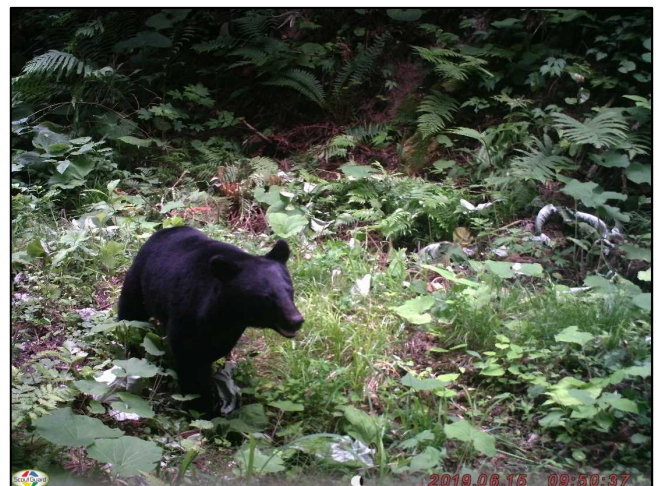
中・大型哺乳類調査報告書は当センターのHPに掲載していますので、興味のある方はご覧ください。

今回の調査結果で目立った点は、ツキノワグマの撮影個体数を平成 30 年度の値と比較したところ、約 3 倍近くとなりました（平成 30 年度：21 地点 88 個体、令和元年度：30 地点 237 個体）。令和元年度は白神山地周辺のブナの実が凶作だったため、奥山から人里へ餌を求めて下りてきたのではないかと推測します。これから登山や山菜取りなど山に出かける機会が多くなると思いますので、クマと遭遇しないように対策をしっかりとやって、自然を楽しんでいただければ幸いです。（葛西）



ニホンジカ成獣♂

（2019.9.29 深浦町長慶平）



ツキノワグマ

（2019.6.15 深浦町長慶平）

人事異動（令和2年4月1日付）

○お世話になりました

所 長 佐々木 弘義→（独）林木育種センター東北育種場

連絡調整課 課長

生態系管理指導官 三浦 幸久→宮城北部森林管理署 総括森林整備官

専門官 葛西 信彦→森林技術・支援センター 企画係長

○よろしくお願ひします

所 長 田中 裕治 ←米代東部森林管理署 次 長

農林水産技官 木村 航汰 新規採用

お世話になりました

（独）林木育種センター東北育種場 連絡調整課 課長 佐々木 弘義

このたび4月1日をもちまして国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場に異動することになりました。

昨年の4月に33年ぶりの鱒ヶ沢勤務となったところでしたが、1年間の短い勤務となってしまいました。1年ではありましたが関係機関の皆様には大変お世話になりました。

在職中は、世界遺産白神山地での貴重な生態系の管理、白神山地周辺地域の自然再生活動や自然環境教員等に関係各機関の協力を得ながら取り組んできたことや、新庁舎の設計については以前の勤務地で当センターの設計に携わり、着任したら新築工事に携わるという設計から施工まで担当したことが思い出深いものとなりました。

当センターの活動は、関係機関及び地域の皆様のご支援があって活動でございます。新庁舎で4月から新体制となるセンター職員への変わらぬご支援をよろしくお願ひいたします。

離任の挨拶とお詫び

宮城北部森林管理署 総括森林整備官 三浦幸久

平成29年4月より3年間、当センターの職員として白神山地に関する事業に携わる事ができ貴重な体験となりました。その間、白神山地に関わる関係者や地域の方々との交流を通じ、当センターの取り組みにご助力頂きましたこと、この場をお借りし感謝申し上げます。

また、白神の絆165号に掲載の記事「巡視の合間に・白神山地の四季の表情」で「奥入瀬川」と記述している部分がありましたが、正しくは「追良瀬川」です。読者の方々から「追良瀬川かな？」と言ったお声を頂きました。読んでもらえる事に感謝すると共に、誤表記したことに対しお詫び申し上げる次第です。

なお、ホームページには白神の絆165号の訂正版が掲載されております。

最後になりますが、津軽白神森林生態系保全センターにおいては、本当に楽しく仕

事をさせていただきました。在任中交流あった方々にお礼と感謝を申し上げ離任の挨拶といたします。3年間お世話になりました。

ありがとうございました 森林技術・支援センター 企画係長 葛西 信彦

平成30年度から2年間にわたって、森林教室や自然再生活動、哺乳類調査業務など、色々な形で白神山地に関わってきました。その中で出会った皆様には白神山地のことはもちろんですが、植物や昆虫、魚や地名などの知識や情報の豊富さに大変驚かされました。とても多くのことを学ばせていただきました。感謝申し上げます。

今後は業務として白神山地から離れることとなりますが、これからも個人的に家族を引き連れて、十二湖や暗門の滝など白神山地へ足を運ぶ予定ですので、見かけた際には気軽に声をかけていただければ幸いです。

短い間でしたが、縁あって出会いました皆様のおかげでとても充実した時間を過ごせました。本当にありがとうございました。



フクジュソウ

(2020.3.17 深浦町大間越)

新体制でスタートします

所長 田中 裕治

4月1日付け人事異動で津軽白神森林生態系保全センターに着任しました、田中裕治です。平成23年から平成25年まで約2年間、センターのフィールドでもある鱈ヶ沢森林事務所に勤務していました。生態系保全に関する業務は初めてであり、白神山地、岩木山、津軽半島の屏風山など当センターのフィールドを森林官の時と違う目線で業務に取り組み、円滑なセンター業務に取り組んで行きたいと考えております。

センター業務における自然再生活動や自然環境教育は、多くの地域住民、ボランティア団体等と一緒に活動であり、また、国有林を管轄している津軽森林管理署、金木支署の協力・支援・連携なくしては成しえないものであります。皆様から多様な意見・要望を聞き、期待に応える活動に努めて参ります。

センターのフィールドは、白神山地は青森県南西部と秋田県北西部にまたがる約13万haのブナの原生林を主体とした地域で、貴重な動植物が生息しており世界的に価値の高い自然生態系をなしておりますが、昨今ニホンジカの生息域が拡大しており森林生態への影響が懸念されています。被害防止対策としてセンサーカメラによる監視体制の強化など各関係機関と連携を取りながら取り組んで参ります。

現在、新型コロナウイルスの影響により各種イベント・各種会議等が中止及び延期となっておりますが、コロナウイルス感染が終息した後においては、早期に活動を再開します。これまでと同様、皆様のご協力をお願いするとともに、地域に親しまれる保全センターとして取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自然再生指導官 小倉 俊一

ここ鱒ヶ沢町で2回目の春を迎えました。日々着々とほころんできているサクラのつぼみを眺めながら通勤しています。穏やかな風景が広がっている反面、報道では毎回トップに移動規制等の情報が流れ、私が担当している森林ふれあい推進や自然再生活動において、一般公募が行えない状況です。とても残念な事ですが、まずはウイルスの拡散防止のため、辛抱するしかありません。

今年度は白神山地のフィールドの把握に務めるべく、時間を見つけて巡視を行う考えです。この状況がいつまで続くのか不明ではありますが、一日でも早い終息を祈りつつ、ふたたび皆さんと森林教室や自然再生活動が行えることを楽しみにしております。皆さんにおかれましては、くれぐれもお体ご自愛下さい。

農林水産技官 木村 航汰

4月1日付でセンターに着任しました、新規採用の木村です。よろしく申し上げます。社会人1年目で、仕事で分からないことが多く非力ですが、できるだけ早く活躍したいので、毎日の業務に全力で取り組みたいと思っております。幸い初めての着任先が地元であったので、活動範囲である白神山地に馴染みがあり、これまで得てきた経験を少しながらも活用したいと思っております。

また、私の趣味である登山や野鳥観察が業務内容と重なる部分があるので、業務時間内はもちろん業務時間外においても、自らの趣味を通して仕事に対する知見や知識を蓄えて、それについても活用していければよいのだろうと思っております。

非常勤職員 下山 優美

新庁舎となり、自宅から時々自転車で通勤しておりますが、これが日頃の運動不足解消になれば良いなと考えています。また、潮の香りや季節によって彩りを変える木々を楽しみつつ安全運転で通勤したいと思います。

さて、現在の状況ではイベント開催が難しい状況となっておりますが、イベントを通じてお会いしている皆さまの笑顔に触れ会える事を楽しみしております。今年度も宜しく申し上げます。

【重要なお知らせ 令和2年度森林教室・自然再生活動について】

令和2年度の森林教室並びに自然再生活動は、新型コロナウイルス感染症の発生状況の鑑み、現在、全ての計画・実施について見あわせております。

また、5月に開催予定の第1回森林教室については開催が難しいと判断し中止とさせていただきます。

今後の開催につきましては、決定次第「白神の絆」にてお知らせいたしますの、ご理解とご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。